

自治会まちづくりミーティング（要旨）

1. 自治会等の名称 川島自治会連合会
2. 日 時 平成30年6月28日（木）19時00分～20時30分
3. 場 所 川島市民サービスセンター
4. 出 席 者 自治会長 23名、 市長、 企画政策課長

〈内容〉

○連合会長のあいさつ

○市長のあいさつ

○テーマ概要

テーマ①：落ち葉の有効活用

テーマ②：民地内に設置されている地上式消火栓を地下式に

テーマ③：川島パーキングエリア内にスマートインターチェンジを

○提言による懇談

テーマ①：落ち葉の有効活用

〈松倉町自治会連合会長〉

緑の街各務原市、環境負荷低減に積極的に取り組んでいる各務原市、そんな各務原市になって欲しいと思い、今回提言をしました。

私は現在各務原市の施設を管理する会社に勤務しています。最初は市民球場に配属となりました。球場には芝生があり業者の方が一定の長さにカットしています。そのカットした芝生を頂けないかと一般市民の方から相談があるようです。相談を受けた職員が、何に使うのかを尋ねたところ、土壌改良に使うと言われたそうです。そのような利用方法があるものだとその時は感じました。

現在は、総合運動公園に勤務しています。広大な敷地の中には、ソフトボール場、野球場、サッカー場、陸上競技場、アーチェリー場、キャンプ場ができ、各務原市民はもちろん、近郊市町村、愛知県の方々の利用も増えています。

また、健康維持のために、総合運動公園を出発点として散歩される方が非常に多くなっており、緑が多く綺麗な公園だと思います。

しかしながら、秋から冬にかけて落ち葉の量が多く、清掃はするものの、歩く人には不便さを感じる場合もあるかと思えます。

また、川島の河跡湖公園を歩くこともありますが、秋から冬にかけて落ち葉が多いと感じます。この落ち葉を上手く利用することで、ボランティアで清掃されている方が、何かに使われ、綺麗な公園で多くの方に利用されればと考えました。

最近では、ガーデニングで植物を育てたり、家庭菜園をされる方も増えており、自分で堆肥を作りたい方もお見えだと聞いています。

そこで、公園から出る落ち葉を欲しい方が自由に持ち帰り、利用できるような仕組みを構築してはどうでしょうか。落ち葉を堆肥として再利用できれば、環境への負荷の軽減につながると思います。

〈市長〉

身近な公園の落ち葉については、公園ごとに自治会にて、清掃・収集をさせていただいておりまして、後日、市が回収をしています。

現在、公園で回収した落ち葉については、回収時に外来種であるアルゼンチンアリが生息している地域の物と混ざってしまうため、すべて焼却処分している状況です。

そのため、ご案内のとおり、落ち葉を欲しい方に持ち帰っていただき、各家庭で堆肥として有効利用していただくことは、環境への負荷軽減の観点からも大変望ましいと考えていますので、自由に持ち帰ることができることを関係自治会に周知していきます。

ただし、アルゼンチンアリ生息区域においては、落ち葉に付着している可能性があることから持ち帰ることはできません。

他市における緑のリサイクル活動の一つに、公園に「落ち葉ステーション」を設置して、落ち葉を肥料・堆肥化し、できた堆肥を公園内の花壇で、あるいは、各家庭に持ち帰って使用することができる、という取り組みがあります。

本市においても、今後、自治会内で「落葉ステーション」の管理をしていくという方向でご意見がまとまり、ご要望をいただければ、公園内で場所等を調整のうえ整備できるよう対応してまいりますので、ぜひ自治会内でご検討いただければと思います。

また、落ち葉を持ち帰ることに抵抗を感じるなどのご要望があれば、「落ち葉を持ち帰っても結構です」といった内容の看板や、市の落ち葉回収日が分かる看板の設置も対応していきますので、担当の河川公園課までご連絡ください。

総合運動公園や川島スポーツ公園については、管理人にお声をかけていただければ、自由に落ち葉を持って帰れるように調整していきます。

テーマ②：民地内に設置されている地上式消火栓を地下式に

〈緑町自治会連合会長〉

民地に設置されている地上式の消火栓を地下式に変更し、迅速な消火活動ができるように提言します。理由としまして、緑町には、39カ所に消火栓が設置されており、地上式が31カ所、地下式が8カ所となっています。そして、地上式消火栓31カ所のうち、確認したところ3カ所が個人宅の駐車場内に設置されています。

住人の方から、「毎回、車の出し入れの際に消火栓に注意を払わなければならず、何とかならないか」と言う相談がありました。

また、火災の時には消防団員や消防署員も駐車している車や塀等に気をつけながら消火作業を行わなければなりません。

各務原市で新たに開発された、桜木町や山崎町の一部などは地下型で設置されています。

そこで、民地内に設置されている地上式消火栓に対する市の考えをお聞かせください。また、緑町の個人宅の駐車場に設置されている3カ所を地下式消火栓に取り替えをお願いします。

〈市長〉

現在、各務原市内には消火栓を 3,389 カ所で設置しており、そのうち地上式消火栓は 189 カ所となっています。一方で、川島地区には 271 カ所ある消火栓のうち 180 カ所が地上式消火栓となっています。

ちなみに、川島地区以外での地上式消火栓の設置については、9 カ所のみとなっており、ほとんどが地下式消火栓となっています。

川島地区において地上式消火栓が多く設置されている経緯については、以前、防火水槽しか無く、新たに消火栓を設置しようとした際に、工事費が地下式より安価であることや、地下式にした場合、川島地区特有の土質等により砂が溜まり維持管理が大変と考えられていたため、地上式消火栓が採用されたようです。

また、火災の発生時に、自分の敷地内に消火栓があることにより安心できるとの思いもあり、敷地内の設置要望が多かったとのことでした。

ご指摘いただいたとおり、桜木町などをはじめとする新たに開発された地域については、地下式消火栓を設置しておりまして、今後も開発地域での消火栓の設置については地下式消火栓を進めてまいります。

なお、消火栓を含む消防水利については、国が示す設置基準として「防火対象物から消防水利に至る距離が直線距離で 120m 包含以内に設置するもの」と定められています。

本市の場合、消防水利となる消火栓・防火水槽及び河川等により充足率は 100% であり、十分満たした状態ではありますが、今後も新たな防火対象物の建設により、消防水利が不足することがないように、新設工事を優先して対応してまいります。

また、地上式消火栓についても、水道施設・設備耐震化整備事業による老朽管路等の耐震化工事に伴い、地上式消火栓を地下式消火栓に移設するように進めております。

市民の皆様の生活環境の変化により、支障が出ている地上式消火栓については、消防本部に自治会要望書をご提出していただければ、水道部局と調整のうえ、地下式消火栓への移設を順次検討して進めてまいります。

この度、ご要望を頂いた個所の消火栓の地下式についても、自治会からのご意見として消防本部にてお受けいたしましたので、他の地域の状況も踏まえながら、今後の検討個所とさせていただきますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

テーマ③：川島パーキングエリア内にスマートインターチェンジを

〈北山町自治会長〉

東海北陸自動車道川島パーキングエリア内にスマートインターチェンジを再開することを提言します。理由としましては、旧川島町時代、川島パーキングエリアと河川環境楽園が開園した時に、川島パーキングエリア内に高速道路からと一般道路から出入りができるスマートインターチェンジの社会実験が話題となりました。その社会実験が終了してから 10 年以上が経過しました。

現在、川島パーキングエリア近辺では、

1. 河川環境楽園内に淡水魚園水族館。
2. リニューアルオープンした航空宇宙博物館

3. 国際大会や全国大会等が開催される川崎重工業ホッケースタジアム、リニューアルした各務原総合運動公園。

4. 木曾川南派川側の 138 タワー。

など、レジャー施設やスポーツ施設などが充実しており、特に河川環境楽園においては東海地区でも有数の集客数を誇っています。

また、最近では ETC システムの普及により、高速道路の出入口の渋滞が大幅に緩和され、東海北陸自動車道に乗れば、東京・大阪・北陸へのアクセスが大幅に良くなりました。

ぜひ、川島パーキングエリア内にスマートインターチェンジの再開をお願いします。

〈市長〉

平成 17 年に実施された川島パーキングエリア内のスマートインターチェンジ社会実験では、東海北陸自動車道を利用して河川環境楽園を訪れる観光客を市内の他の観光施設等へ誘致し、地域の活性化を高める効果や、周辺道路の交通混雑の緩和などの調査も行われましたが、スマートインターチェンジを使う自動車と国営公園を訪れる観光客の動線に関する安全面の問題や、運用・コスト面で課題を残す結果となりました。

また、この社会実験に伴うアンケート調査においては、地元では約 7 割の方々がスマートインターチェンジの常設を望んでおられたものの、社会実験を行った全国 37 カ所の中では利用交通量が非常に少なく、その結果に基づき、川島パーキングエリアを含む 4 カ所については、設置の検討が中止された経緯があります。

社会実験の際にはパーキングエリアと河川環境楽園の駐車場を直結し、複数の誘導員による安全対策が行われましたが、常設するにあたっては安全確保のため、スマートインターチェンジの出入口を幹線道路に直結する必要があることから、上り、下りのパーキングエリアに直接アクセスする道路を、新たに整備する必要性が生じ、多額の費用を要します。

また、このスマートインターチェンジは、岐阜各務原インターチェンジや一宮木曾川インターチェンジまでの距離が非常に短いことや川島地区周辺の通過交通が大幅に増加するとともに、地域内の限られた道路網において新たな渋滞の発生などを引き起こし、生活環境の悪化が懸念されます。そのため、スマートインターチェンジの設置については、費用対効果や周辺地区内の生活環境の変化など、これらの条件を総合的に判断した結果、現在のところ考えていません。

○行政の説明

・その先、その次へ GO! NEXT

○その他の主な発言

〈松倉町自治会連合会長〉

河跡湖公園の電灯が 3 個切れているとの情報が一般市民の方からあり、現地を確認し担当課にお願いしたところ、直ぐに対応していただきました。また、不都合があったところも直ぐに対応していただきました。非常に早く対応され、市長にまで話が届いていることに感心しました。

〈緑町自治会連合会長〉

シティープロモーション推進事業に入るかと思いますが。以前、移住されて来た方に御祝い金制度があったと思いますが、今は廃止となっていると思います。

緑町は一宮市から多くの方が転入され、ありがたい制度だったと聞いています。現時点では、市はどう考えているか、それに対して効果がどれほどあったのかお伺いします。

〈市長〉

以前、各務原市に移住されて来た方には10万円を渡していました。移住により10万円を受け取られた方に調査したところ、その制度を知っていたかと聞きますとほぼゼロでした。

10万円があるから各務原市に移住して来たわけではなかったもので、3年程で廃止をしました。

移住者に渡すのではなく、今住んでおられる方に住環境を良くさせていただく、住み心地を良くお暮らしをしていただくことによって、市外の方に人を増やすためのPRすることが、移住に向けての施策展開することと認識しています。

今後、移住者への奨励金を復活することは今のところ検討はしていません。

各務原市に移り住んでいただいた方、今なお住み続けておられる方々には安心・安全に住み続けていただける環境を作ることが責務と考えています。

市からPRを一つさせていただきます。

昨日の新聞を見られた方もあるかと思いますが、中日新聞、岐阜新聞、毎日新聞等全ての新聞記事に掲載させていただきました。

個人宅のブロック塀撤去取り壊しの補助金を持っていますが、1㎡当たり7,000円、最大10万円でしたが、先日早々に決定させていただきました、1㎡当たり1万円、最大30万円に拡大させていただきました。

川島地区を歩いてみて、危険なところのブロック塀があれば、この拡充された補助金制度をお知らせしていただければと思います。

ウェブサイトにはすでに掲載させていただきましたが、7月15日号広報紙にもブロック塀の補助金制度を掲載させていただきます。

○連合会長からまとめのことは

○市長からまとめのことは